

サロンあべの

〈サロン・あべの〉3月の出会い 自助具の部屋の活動& 作品展

平成24年3月17日(土) 〈サ
ロン・あべの〉3月の出会いは、

「大肢協自助具の部屋の活動&
作品展」と題して、ポランティ
アグループ大肢協「自助具の部
屋」会長の加藤義一さんにお話
を聞き、作品を拝見しました。
以前、加藤さんには紙芝居、娘
さんがオカリナ、お孫さんが腹
話術の親子三代で、サロンに参
加していただきました。

・はじめに

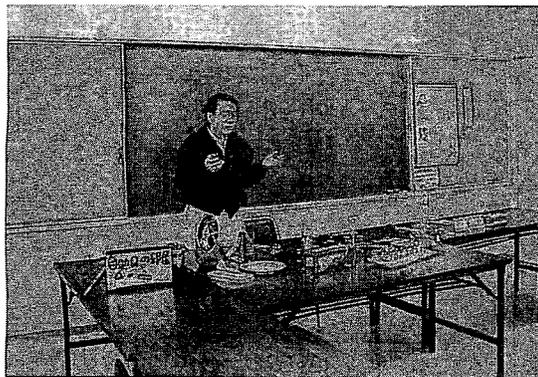
私は昭和16年生まれ。若い頃
は金属関係の仕事をしていた。
当時の定年は60歳であった。が、
その後の人生をゴロゴロと家で
過ごすのではなく、人の役に立
つことがしたい。しかし、60歳

から何かしようと思っても遅い。
50歳を過ぎた頃から何かできる
ことはないかと探していた。た

またま新聞で森之宮に「自助具
の部屋」というポランティアグ
ループがあることを知った。当
時、障害を持つ人と接点がなく、
自助具って何やら、ということ
から覗いてみようと思った。
・居場所探し

「大肢協自助具の部屋」は、
障害のある人たちに使いやすい
日常生活器具や道具の開発や研
究をし、障害のある人の求めに
応じて自助具の製作をしている。

自助具とは、障害を持つ人が自
分を助ける道具。例えば、交通
事故で片麻痺になったので、片
手でできる道具を作ってほしい



という。その人にどういうもの
があつているかいろいろ考える。
コップの枝が像の鼻のように下
に伸びていて片手の指を引つ掛
けることで持ち上げることがで
きるようになる。「自助具の部
屋」の活動が分かったので、自
分も何かできないかと思つて参
加した。先輩から、自分の居場
所を探さなあかんと言われた。
居場所があつたら続くと言われ
た。自分は金属の仕事をしてい
たので、溶接が必要な品物など
は、仕事が休みの日に会社でそ

の品物を仕上げていた。グループに参加して2、3年経ってから、NHKの週間ボランティアという番組から取材があった。当時は、金曜日に放送していた。取材では自分が町工場で仕事をして道具づくりをしているところを映して、依頼者へ道具を届けるといふ取材であった。その届け先が、住吉区のサロン「てくてくすみよし」であった。その後、いろいろと個人的に依頼されることもあった。自助具の部屋の活動に参加していたので今年で19年目になる。自分の居場所を見つけて続けることができた。

・仕事の転機

当初は会社に60歳まで働こうと思っていたが、いろいろな事情で町工場の仕事は57歳で辞めた。「自助具の部屋」グループのメンバーに、座位保持の装置をつくっている人がいた。車イスに乗っている人の姿勢を保持できる木製の道具。これを作る手助けをしてほしいと言われ、クッションを削ったり、レザーをかぶせる仕事をしていった。その後、次女の夫にこの福祉道具を作る仕事をしないかと誘った。真面目な仕事ぶりに、5年後には、工房主から工房を譲られた。この工房で10年間やってきた。最近はや

うな依頼は減っている。しかし市販は高いので、安い自助具を作れないかという思いがある。

休憩の後、参加者に意見や感想を聞きました。

「これまでの仕事の経験が生かされている」「個別の自助具から共用品が生まれたら便利だと思う」

この日は、片手で使える爪切り、トランプを立てる台、穴をおさえる工夫されたレコーダーなど、身体が不自由でも使える道具を持ってきていただきました。どこにもある用具でちょっとした工夫をすることにより、自助具ができています。創造力はたらかせて、その人に合った道具を作る情熱と優しさに感動した(サロン・あべの)3月の出会いでした。

(参加者9名 山村貴司)

●大阪協・自助具の部屋

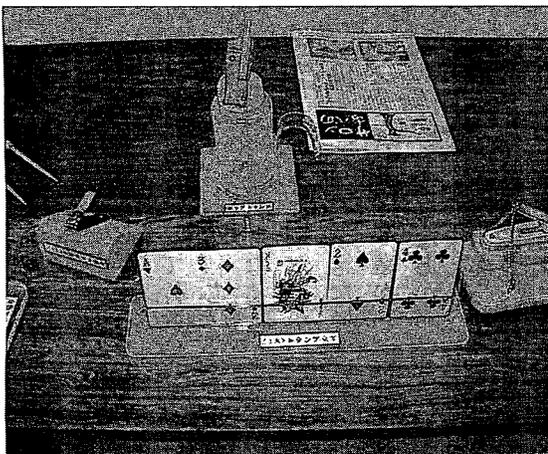
相談日 月・水・金 10時～15時

住所 大阪市中央区法円坂1-1-30

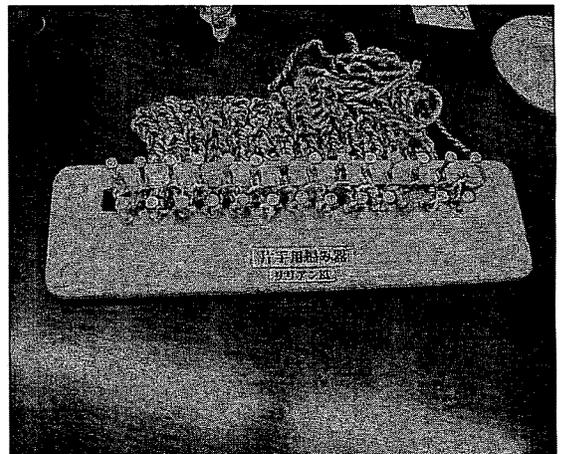
アネックスパル法円坂5F

電話 06-6940-4189

Eメール jiyogu@daisnikyo.or.jp



トランプ立て



平織リリアン編機

美智子のこんな話

岸田美智子

「自立支援法」から「障害者総合支援法」へ

現在、施行されている「障害者自立支援法」は、サービス利用の支給決定の仕組みや、重度になればなるほど高額になる利用料負担などの大きな問題があり、その問題は訴訟問題にもなり、改革がかねてより求められていました。その「自立支援法」にかわる「障害者総合福祉法」の骨格提言が、障がい者制度改革推進会議から提言され、現在いろいろ議論されています。名称も「障害者総合福祉法」ではなく、「障害者総合支援法」というとつてつけた様な名称になり、私たちが求めていた「自立支援法」の廃止ではなく、一部の制度改革に終わらせようとしています。ここでは、3月13日に閣議

決定された内容を簡単に紹介します。今後の総選挙も予想されているので、この閣議決定も廃案になる可能性が残っています。今後も、私たちの声を引き続き挙げていきたいものです！

1、名称

「障害者総合支援法」とする。

2、基本理念

法に基づく日常生活・社会生活の支援が、共生社会を実現するため、社会参加の機会の確保及び地域社会における共生、社会的障壁の除去に資するよう総合的かつ計画的に行われることを法律の基本理念に新たに掲げる。

3、障害者の範囲

「制度の谷間」を埋めるべく、障害者の範囲に難病等を加える。（児童福祉法における障害児の範囲も同様に対応）

4、障害者に対する支援

① 重度訪問介護の対象拡大（難病も含むなど）

② 共同生活介護（ケアホーム）の共同生活援助（グループホーム）への一元化
③ 地域生活支援事業の追加（障害者に対する理解を深めるための研修や啓発を行う事業、手話通訳者等を養成する事業等）

5、サービス基盤の計画的整備

① 基本指針・障害福祉計画について、定期的な検証と見直しを法定化
② 市町村は障害福祉計画を作成するに当たって、障害者等のニーズ把握等を行うことを努力義務
③ 自立支援協議会の名称について、地域の実情に応じて定められるよう弾力化するとともに、当事者や家族の参画を明確化以上のようなポイントになりますが、常時介護がいる重度障害者の移動・就労などのサービスの在り方や障害程度区分の在り方、意思疎通が難しい障害者への支援の在り方などは、3年を目途に検討することになっています。

弁解

サロン誌を第三号（一九八六年九月号）から第二八五号（二〇一〇年三月号）まで、二五年にわたって編集してくださった石田律さんが亡くなったのは、二年前の夏のことです。

石田さんが生前なんども私のエッセイ集を出したいと言ってくださっていたのですが、私はずいずいしていて原稿を出しませんでした。「そのうちに」という言葉を繰り返しているうちに石田さんの訃報を突然受けることになってしまいました。

それからしばらくして、石田さんのご遺族から、石田さんの遺志だったということで、次男のかたを中心に本の出版を考えたいという申し出があり、私としてはたいへんありがたいことだと考えています。

ところが、次男のかたからメールをいただいたのが昨年の秋なのに、それから半年たつても

原稿を準備できないでいます。自分のなかで何がひっかかっているのか、それとも単に自分の気力が無くなってしまうだけなのか、それをじっくりと考えてみよう、ということので、今月の原稿を書いています。

まず、強くないのですが、ある種の自己嫌悪感のようなものがあるのです。たとえば、今月のこの文章ですね。正直いって実にくだらないことを書いているような気がしてならないのです。今年の二月号では「時間があっても」というタイトルの文章を書きましたが、富田さんから「面白かった」と言っていたが、いくらかでも気持ちが楽になったのですが、それでも内容としてはたいしたものではありません。自己嫌悪感というのは、そういうことです。「昔は、私もこんな文章を書いていたのか。いまでは書けないなあ」というのが率直な気持ちとしてあります。

別に文学者を気取るわけではありませんが、読み返しても自分でも「良く書けた」と満足できる文章があります。でも、最近はそのようなものがめつきり少ないですね。

自分自身の衰えを感じるということでしょうか。体力の衰えなら、これは年をとれば体力が落ちるのは当たり前なので受け入れやすいので

すが、気力や意欲という点では、ほとんど落ちない人もいます。

文章にしても、年齢が上になれば、それだけ読んでいる日本語も多くなり、人生経験も増えるわけですから、文章としては良くなるように思うのですが、実際には、少なくとも私の場合は、そうはなっていないと思うわけです。

いろんな思いを文章にして吐き出す必要を感じたところがありました。それをささずにいると苦しいという感覚ですね。そういう感覚が減ってきたように思います。ぼんやりとした気分分て一日が過ぎてしまうこともあります。

むかしの自分の文章を読む気だるさというのでしょうか。なんだか近頃の私は悪い意味ですべてがどうでもよいと思うようになっていきました。投げやりになっていくわけではなく、凡人らしい悟りというものでしょう。その底の浅い「悟り」が、むかしの文章を読んでいると、まざまざと見えてくるような気がして恥ずかしくなるのです。

いやあ、今月の文章も恥ずかしいかぎりです。

(知)

晴れのち晴れ

稲垣 恵雄

■切手

最近、携帯電話の普及で手紙やハガキを書く人が少なくなった。それでも筆まめの人には初中、手紙やハガキを書いているのを見る。

当然ながら手紙や絵ハガキを出すには切手を貼らなければならない。このように切手を貼るように定めたのは明治の初め、近代的郵便制度創始者の前島密である。

切手は通常切手と記念切手があるが、私は若い頃に切手のコレクションをしていた。記念切手は何かの記念日や珍しいことがあれば発行される。そんな中で今でも忘れられないのが、毎年4月20日の郵政記念日に発行された「浮世絵」の切手である。この切手は大変人気があって日頃、切手を収集



していない人でも買い求めるためにいつも郵便局の窓口の売り場は長蛇の列ができていた。幸い私の場合、従兄が郵便局につとめていたので毎年、欠かさず買ってきていた。

時代の流れとはいえ、最近ではグループ歌手の「AKB48」や女子サッカーの「なでしこジャパン」などの有名人が記念切手になるのだからすごいなあ、と思った。

毎年、年賀状のお年玉番号が当選すれば50円と80円の切手シートがもらえるが、今年、我が家に届いた年賀状の中で5枚の切手シートが当たって

いた。正直言って80円切手は手紙に使用できるが、50円切手はあまり使いみちがない。だが接角もらったのだから今年は絵ハガキに50円切手を貼って、友人、知人に出すようにしている。

お知らせ

〈サロン・あべの〉5月の出会い

○内容：薫風の長居植物園を散策・・・

「ハーブ園」にある100種類

の中から、お気に入りのハーブ
を見つけてませんか？

○日時：5月19日(土) 午後1時～4時

*集合時間と場所：午後1時、

券売機前。

○場所：大阪市立長居植物園

〔大阪市東住吉区長居公園1-23〕

TEL 06-6696-7117

○会費：なし、入場料200円個人負担

障害者手帳をご持参の方は無料

○問合せ先：TEL 06-6691-1028

(富田慶子)

中村かずみ

家族でアメリカ!

ケンタッキー州滞在記

30

いよいよ帰国です。

ご近所や職場で送別会をしていただき、子どもたちも仲良くなった級友との別れを嘆きつつ、やはり帰宅には胸躍る様でした。

中古で買った車を売り、ベッドを売り、照明器具も売り払ってしまったと、元々日本の住宅に比べると薄暗かったケンタッキーの我が家は真つ暗(天井に照明があるのは台所だけなので)。たまらずホテルに移りましたが、全館暖房で凍えはしませんから、一晩ぐらいいは現地流にキャンドルを灯してみれば良かったです。燃やすと香るキャンドルはアメリカでは生活の一部らし

く、あちこちに専門店がありました。近所の郵便局でもいつもバケツ大のキャンドルが燃えていて、ハロウィンはかぼちゃクリスマスはシナモンと季節のいい香りで……手紙が燃えないのかと冷や冷やしたのもいい思い出です。

ドライブ好きの主人の計画で、今まで書いた以外にも州内あちこちを回りました。発明王エジソンの家や州都フランクフォートの議事堂。オハイオ川沿いの水族館の目玉は「鮫」でした。モハメッド・アリの出身地ルイスビルはバット生産地でも有名だそうで、見学した工場には長嶋茂雄のサインが!

近所でも、お友達家族と行ったローラースケート場では陽気な生DJが楽しく、がら空きのゴルフコースや崖に柵もないハイキングコースなどなど、どこもひと味違いました。そのあちこちで「日本人?」と好意的に声をかけてもらえたのは素朴な田舎レキシントンだったからでしょうか。

春のレキシントンは美しい、と皆が絶賛でしたのに、花が咲き出す前に帰国してしまい残念でした(お酒好きの主人は、ワイルドターキーなどバーボンの名産地なのに蒸留所巡りを仕損なったのも心残りだった様です)



コウジとサキ最後の登校日、手には皆にもらったプレゼント



3兄妹、こんなに大きくなりました! 東京DLにて



カズキ、養護学級の送別会で先生方とチーズ。左はサキと私

国際線の機内、行きはびくびくしていた子どもたちでしたが、帰りは勝手に飲み物を注文し映画を楽しんでいて時間が驚く程早く過ぎました。

そして『天国』日本！

すぐに新学期で以前の学校に戻り、幼なじみに迎えられてホッとしたのでしょう。コウジもサキも毎日ニコニコ、復習テストでゼロに近い点を取りながらも、日本語だと朝礼も授業も楽しいと言っていました。カズキも同様か、かなり苦労していた地域の中学校に、帰国後は笑顔で登校していましたよ。

そしてはや4年が経ち、この4月から中2高1高3になります。

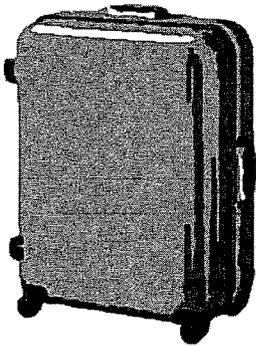
弟妹はしばらく『外国は嫌やー』と繰り返していました。中学で英語の授業が始まればやはり得意科目に。この連載を読んでは思い出話などして、最近はレキシントンにならまた行ってもいいと言いました。また家族であるの街を訪れる事があるのでしょうか。

さすがに女の子はママで、サキは当時のクラスメートと可愛い文通を続けています。その点男子はさっぱりとはいえ、このネット時代、出身校を登録すると同級生に連絡がつくシステムもあるそうですから、いつかインターネットで

『コウジ！久しぶり！』と声がかかることもあるのかも。そしてカズキもスキーや卓球を続けていれば、障害者世界大会で当時の仲間と再会できるかもしれませんよね。

留学する主人について、英語が出来ない小学生と日本語も喋れない自閉症の中学生を連れての海外暮らし。たった7ヶ月を綴るのに、思いがけず長々書いてしまいました。皆様には素人の拙文におつきあいいただきまして本当にありがとうございます。お楽しみいただけましたら幸いです。貴重な機会を下さった「サロンあべの」紙にも感謝しております。

最後にはケンタッキーなお店をご紹介します。



<UKカフェ>の前にコウジ

（UKカフェ）
高井田、堺大浜他関西に3軒、ポリウムたっぷりアメリカご飯を提供してくれるお店です。ケンタッキー大学に留学していたオーナーの思い出をつめこんだ店内は、UKグッズと、マスコットのワイルドキャッツで溢れていました。機会がありましたら是非！



5月はどこのサロンの、
どのテーマが
お気に入りですか。
いい出会いしませんか。

■「サロン淀川」5月の出会い

日時：3月20日(日) 午後1時30分～4時

内容：「モンゴル馬頭琴の調べ パートⅡ」

モンゴルの大草原を超えて

ゲスト：ホトランガ氏Futurenga

モンゴル馬頭琴奏者&歌手

場所：「やすらぎ」大阪市淀川区三国本町2-14-3

会費：なし

問合せ先：淀川区社協TEL06-6394-2900

■「ウイズ東淀川」5月の出会い

日時：5月13日(日) 午後1時30分～4時

内容：人と時代に恵まれて

ゲスト：藤野高明氏(元大阪市立直高等学校社会科教員)

著書「21世紀に向け君たちはどう生きる」

「あの夏の朝から 手と光を失って30年」

場所：NPO法人自由空間クラブ(東淀川区淡路2丁目)

会費：なし

問合せ先：TEL06-6340-3082(鈴木昭二)

■「サロンにしよど」5月の出会い

日時：5月26日(土)

内容：ばーべーキューパーティー

長った冬のうっぶんを吹き飛ばしましょう。

場所：淀川河川敷(海老江地区)

会費：未定

お申込みと問合せ先：中本TEL090-9864-9678

■「サロンにし」5月の出会いは、お休みです。

■「サロンいたみ」5月の出会いは、お休みです。

隣りのテレビ

「敬神婦人会・わかば会の講演会

・日時：5月24日(木) 午後3時～

・内容：「老前整理」

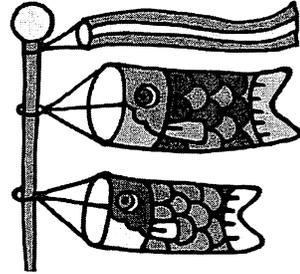
・講師：坂岡洋子さん

・場所：王子神社・2階参集殿

大阪市阿倍野区阿倍野元町5-16

・問合せ先：TEL06-6621-7033

王子書店(上田宏子)



サロン・あべの毎月の感謝

○カンパ、お茶菓子、宛名シールのご提供、
ありがとうございました。

コーヨー北島、桑田加代子、小西京子、
竹村定子、平岡太、東百合子、松村美鈴、
宮脇信子、その他の方、(敬称略)

<サロン・あべの>Vol.310 発行：平成24年(2012年)4月21日 定価¥100
編集人：<サロン・あべの>運営委員会 表題：中西利香・筆
事務局：〒545-0021大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 富田慶子方<サロン・あべの>
TEL・FAX06-6691-1028 郵便振替口座：サロン・あべの00950-9-26941
印刷：セルフ社〒546-0044東住吉区北田辺町4-23-2ミスターDビル2F06-6719-8212
ホームページ：http://pweb.sophis.ac.jp/oka/salon/ 「サロン・あべの」でも検索できます